

皮膚科 臨床研修カリキュラム

研修責任者 奥山 隆平

1. 研修科の特色

- 1) 皮膚に異常のあるすべての疾患が皮膚科の診療対象です。
感染症、炎症性疾患、腫瘍、自己免疫疾患、遺伝性疾患、アレルギー性疾患、蕁麻疹など幅広い疾患を診ます。皮膚を診て、診断を考え、治療法を組み立てていくシャーロックホームズのような広い視野と深い洞察力が大切です。
- 2) 高い専門性を持つことができます。
ひとつひとつの皮膚はそれぞれ特徴的な所見を呈しています。一定の研修期間が必要ですが皮膚を診て1)にあるような疾患を診断できるようになります。
生涯、臨床医として現役で活躍し続けられる科です。
- 3) 幅広い分野で活躍できます。
一般的な診療はもとより、病理診断、ダーモスコープなどの画像診断、皮膚外科、美容、最近では人工知能(AI)など興味がある分野についてさらに高い専門性を高めていくことができます。
- 4) Quality of Life を高く保つことができます。
様々な人生のステージにおいて、自分の生活スタイルに適した勤務体系をとることが可能です。
- 5) 信州大学皮膚科について
すべての医局員が炎症性疾患や腫瘍性病変を分けることなく診療し、皮膚科全般について専門的なスキルが習得できるような教育体制がとられています。特に悪性黒色腫の診断、治療において国内有数の施設であり、臨床・研究ともに力を入れています。また、炎症性角化症である乾癬について県内から紹介患者を受け入れ、外用療法、光線療法、内服治療、生物製剤治療まで症状に合わせた治療を行っています。

2. 研修目標

一般目標 GIO

皮膚疾患における所見の表現法および診断法の基本技術を身につけることにより、日常診療で見られる皮膚疾患に対して適切に対応できることを目的とする。

行動目標 SBO

1. 発疹や一般所見の診察、評価ができ診療録に記載できる。
2. 皮膚科の検査法 真菌直接鏡検 (KOH)、皮膚アレルギー検査、ダーモスコープ検査などを上級医の助言を得ながら自ら実施し結果を解釈できる。
3. 皮膚疾患に対する外用剤、創傷被覆剤、内服薬の使用法を理解し、上級医の助言を得ながら自ら実施できる。
4. 皮膚縫合や皮膚生検について理解し、上級医の助言を得ながら自ら実施できる。
5. 代表的な皮膚疾患の鑑別、治療法を理解し、患者の実情にあった治療を上級医とともに行うことができる。
6. 皮膚病理組織診断の基礎を理解する。
7. 皮膚悪性腫瘍の手術法、化学療法などの治療法を理解する。
8. 簡単な腫瘍切除、簡単な植皮について理解し、上級医とともに治療ができる。
9. 終末期患者に対する治療や IC を学ぶ。

3. 研修方略

(研修期間が4週の場合)

1. (SBO 1, 4, 5, 7, 8, 9) 入院患者の診療を担当する。
2. (SBO 1) 病棟回診 (週5日) 上級医、後期研修医とともに入院患者を毎朝回診する。
3. (SBO 5) 総回診 (木曜) で担当患者についてプレゼンテーションを行い、治療方針を発表する。
4. (SBO 5) 病棟カンファレンス (月曜) で担当患者についてプレゼンテーションを行い、治療方針を発表する。
5. (SBO 7, 8) 中央手術室で手術助手として手術に参加し、簡単な縫合を行う。
6. (SBO 1, 2, 3) 外来診察の補助、検査の補助を行う。
7. (SBO 6) 症例カンファレンス、病理組織カンファレンスに参加し、疾患及び診断について理解する。
8. (SBO 9) 上級医について終末期の患者のICに同席、薬物療法を理解する。

(Advanced (4週以上) の研修の場合追加される項目)

9. (SBO 4) 簡単な腫瘍切除、簡単な植皮を上級医の指導の下で行なう。
10. (SBO 1, 2) 水疱症、薬疹などの治療について理解し、上級医の指導の下で治療を行う。
11. (SBO 2) パッチテスト、プリックテスト、光線テストなどを上級医の指導の下で行う。

4. 週間予定

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟回診 外来	病棟回診 外来	病棟回診 外来	8:30- 総回診 病棟回診 外来	病棟回診 外来	
午後	病棟業務	手術	病棟業務	病棟業務	手術	
17:15 以降		手術	病棟業務	16:30-18:00 医局カンファレンス (臨床写真・病理組 織、症例カンファ)	手術	

※ (木) 17:30-18:00 研修医クルーズ

5. 評価

研修期間の評価

4 週以上の研修が不足なく行われていること。また、研修医は研修において経験した項目について随時 PG-EPOC に記録する必要がある。

研修修中の評価

(形成的評価)

PG-EPOC による評価を行なう。
指導医及び看護師による評価を行い不備な点を指導する。

研修後の評価

研修医は、当該研修科の研修期間の最終日まで、PG-EPOC の該当項目について自己評価を行う。
自己評価が終了次第、当該科の指導医、指導者（看護師長）にその旨を報告し、評価を依頼する。
研修中に経験した疾病、症状について病歴要約を作成・提出し、速やかに指導医へ評価を依頼すること。

(形成的評価)

当該研修科の指導医、指導者は、研修医評価票に記載された評価を用い、フィードバックを行う。

- ・研修医評価票 I に基づく評価
指導医・指導者（看護師長）が、A-1 から A-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。
- ・研修医評価票 II (1-9) に基づく評価
指導医・指導者（看護師長）が、1～9 の項目について評価する。
- ・研修医評価表 III に基づく評価
指導医、指導者（看護師長）が、C-1 から C-4 の項目について評価し、印象に残るエピソードを記入する。

臨床研修評価表 I～III を基に、責任指導医は臨床研修の目標の達成度判定票を作成し、当該研修期間における目標の達成状況を判定する。

(再履修を要する場合)

- ・出席日数が不足した場合

(研修科の総括的評価)

当該研修科を修了とするに不十分であると判断された場合、卒後臨床研修センター長と協議し、再履修とする。

※当科の臨床研修指導医は卒後臨床研修センターWeb サイトにて確認してください。

信州大学医学部 皮膚科学教室

■住所：〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 ■電話：0263-37-2647(直通) ■FAX：0263-37-2646

■E-mail：derma@shinshu-u.ac.jp

■URL：https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-hifu/